

# 生物多様性

## くまもとCだより

第6号!  
(R2新春)

令和2年1月6日発行  
発行元：熊本市環境局  
環境推進部 環境共生課  
TEL：096-328-2352



熊本市は平成28年3月、「熊本市生物多様性戦略～いきもんつながるくまもとCプラン～」(Cプラン)を策定しました。これは、私たちのまちや暮らしを自然と寄り添いながら、魅力的にしていけるための計画。だけど、「そもそも生物多様性ってなに？」…基礎的なことから最近の話題までをお知らせする「生物多様性くまもとCだより」第6号をお届けします！

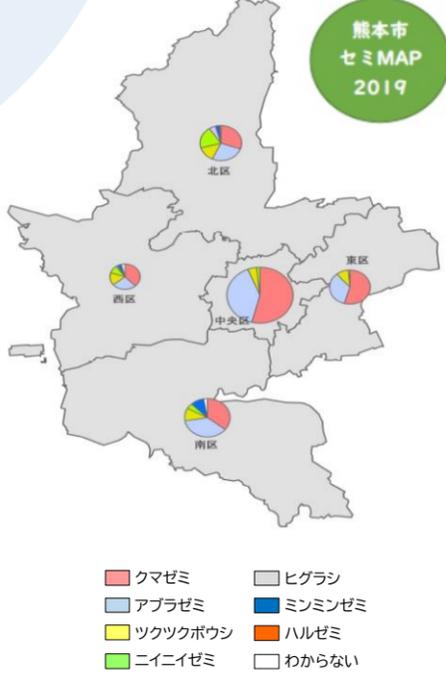
### 市民参加型セミ調査

セミって、環境によって生息している種類が違うのを知っていますか？森林でよくみられる種、街なかの公園の木でみられる種……このセミ調査を何年も継続して行うことで、熊本市内の環境の変化がわかるかも(!?)ということで、令和元年7月、市民の方々が調査員となつての“セミ調査”を開始しました。調査の方法は、セミが確認された場所とその種類を調査票に記入して、環境共生課に送るだけ。

7月の調査開始に合わせ、小学生以上を対象とした講習会を開催し、31人の参加がありました。セミの生態、鳴き声や抜け殻による種類の判別方法などを学び、調査の練習として近くの公園で抜け殻を探し、クマゼミの抜け殻を見つけました。

調査は9月13日まで行い、多くの方々に参加いただき、587件のデータが集まりました。その結果をもとに“熊本市のセミマップ”を作成しました。

今年参加された方もそうでない方も、来年以降の調査にはぜひご参加ください！“熊本市のセミマップ”やセミのいろいろな写真など、詳しい調査結果については熊本市ホームページに掲載しています。



↑詳しく知りたい方は  
熊本市ホームページへ



貝という言葉を見ると、大半の方は海を連想するかもしれませんが、貝は海だけではなく湖や池などの淡水にも、さらには陸地にも多数生息しています。貝の世界は一見多くの人には関係がないように見えますが、私たちの生活の身の回りに確かに存在しているものです。

貝類調べ隊は熊本市を含めた熊本県内の貝について様々なフィールドへ出向いて調査を行っています。最近特に陸貝(カタツムリ)についての調査を中心に月に1回(第3土曜日)実施しています。メンバーの多くははじめから貝に興味があったわけではなく、自然が好きで実際に自分の目や手で貝の世界を実感するにつれて次第に貝の世界の深さを知ってきました。そのため、貝類調べ隊では貝の知識だけではなく、自然や生物多様性への興味、自分で貝を見つけることができる喜び・達成感を大切にしています。



↑図1 ツシマケマイマイ



↑図2 オオクビキレガイ

今までの貝類調べ隊の活動を通して、今まで発見されていなかった新しい貝の発見がなされてきました。例えば、熊本城の近くにある監物台樹木園を調査した際、今までは長崎市や福岡市などに生息し熊本での生息は確認できていなかったツシマケマイマイ(図1)という陸貝が発見され、このことは本種の新分布地として報告されました。

また、熊本県内の外来種を調査した際にはオオクビキレガイ(図2)の繁殖も確認されました。オオクビキレガイは乾燥耐性が強く雑食性であるため、農作物等の植物や他の陸貝への被害も報告されています。海外ではオーストラリアやアメリカの生態系に既に影響をきたしており、九州でも福岡県でオオクビキレガイによって葉物野菜に甚大な被害が起こっているため、今後は熊本県内での警戒・対策が重要になります。

今後は陸貝をはじめとした熊本県内の貝類相のデータベース作成や貝類調査を通じた環境変化にもフォーカスを当てた調査を継続していきたいと思えます。はじめは貝の知識がなくてもまったく問題ありませんので、ぜひ一度遊びに来てみてください！

お問い合わせ

family.volutidae617@gmail.com



↑活動の様子

『貝の居場所は私たちのそばに』  
熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーズクラブ  
貝類調べ隊 リーダー 久松 望

### くまもといきもんノート

#### ～6. 縁起がいい花!? ミズヒキ～



↑夏の終わりに秋頃に見られる花  
(左下は花と実の拡大)

紅白の色は縁起の良いものとして、お祝い事やお祭り、お正月飾りなど、いろいろな場面で使われています。

ミズヒキの花は、上半分が赤く、下半分は白くなっており、花のついた長い穂を上から見ると赤、下から見ると白に見えるため、紅白の水引に例えてこの名が付けられました。

林縁などのやや暗い場所に生育していることが多く、葉にV字形の黒い模様が現れるとすぐに分かります。花が見られるのは、夏の終わりから涼しくなり始める秋頃までで、残念ながら、この時期は花が終わってしまっていますが、めしべの先端部分が硬いかぎ針状となり、人や動物に付着して運ばれる「ひっつきむし」になった実を見ることが出来ます。

(文・写真) 熊本博物館学芸員 山口 瑞貴



雁回山(木原山)

みんなで未来に残したい  
熊本市の自然環境  
⑥

雁回山は、熊本市南区と宇土市の境界にまたがる標高314mの山地で、水田が広がる熊本市の南部における森の拠点を形成しています。もともと木原山と呼ばれていましたが、弓の名手だった鎮西八郎為朝が山を通る雁をいつも射落としていたため、雁が迂回するようになり、雁回山と呼ばれるようになったといわれています。遊歩道は木々の緑を眺めながら散策が楽しめ、頂上展望台からは、不知火海や有明海、熊本市方面が一望に見渡せ、市民に親しまれています。

雁回山は市内でも特にシダ植物が豊富な場所で、クルマシダをはじめ生育するシダ植物は100種にのぼると見積もられています。また、動物にとっても豊かな森林が残っており、六殿宮周辺ではムササビが確認されています。最近では、林床に生育する植物や農作物などに被害を与える可能性があるイノシシやニホンジカの出没が増えています。また、近年雁回山周辺ではアライグマの生息も確認されており、これらの動物の生息状況について、注意が必要です。

「生物多様性」って何なんだ!?

「生物多様性」って何だろう? 生きものがたくさんいること?? いやいや、それだけじゃない、ふか～～～い世界が…

### 「生物多様性を守るために」編③ ～私たち一人ひとりができること(実践編)～

今回は熊本市が目指す2050年の『望ましい姿』を紹介しました。都市でありながら、豊かな自然と生物多様性、そのめぐみにあふれた環境のなか、人と自然がつながりあい、いきいきとした心豊かな暮らしを営んでいる…そんな姿でした。今回は、熊本市の生物多様性を守り『望ましい姿』になるために、私たち一人ひとりは何ができるのか、何をしたらいいのか、考えてみましょう。

#### ◇生物多様性を守る「5つの行動」

熊本市の生物多様性の『望ましい姿』を実現していくためには、市民・市民活動団体・事業者・行政機関といった様々な立場にある一人ひとりが行動を起こし、連携・協力して取り組んでいくことが大切です。Cプランでは、望ましい姿の実現に向けた取組を進めていくため5つの基本戦略を設定しています。

#### ①知る

～基盤となる情報の継続的な収集・整備～

自然環境についての情報の収集・整理、観察・モニタリングによって状況を把握することで、効果的・効率的な対策を実施することができます。また、収集・整理された情報を広く共有する体制を構築することも重要です。

- ◎身近な自然環境・生物多様性に関心を持ち、情報を広く共有しましょう。
- ◎市民参加型のモニタリング調査や観察会などへ参加・協力しましょう。



↑金峰山周辺の森林や里地里山にはムササビやフクロウが生息し、水路にはゲンジボタルが生息していることを『知る』

#### ②学び、つながる

～生物多様性の認識の向上、人材の育成、連携・協働体制の構築～

生物多様性が暮らしの基盤であり（Cだより第2号参照）、社会・経済とも密接に関連していることについて、理解を深めることが大切です。また、理解不足による行動は、生物多様性に悪影響を与えることがあるため、正確な知識や情報を発信していく必要があります。

- ◎自然とふれあい、日常生活と生物多様性のかかわりについて学習しましょう。
- ◎生物多様性に関する課題の解決に向けた取組へ参加・協力しましょう。



↑学校での緑化の取組。花から種を採取し、苗を育て花を咲かせる、「いのちのリレー」を『学ぶ』

#### ③守る

～生物の生息・生育地の保全～



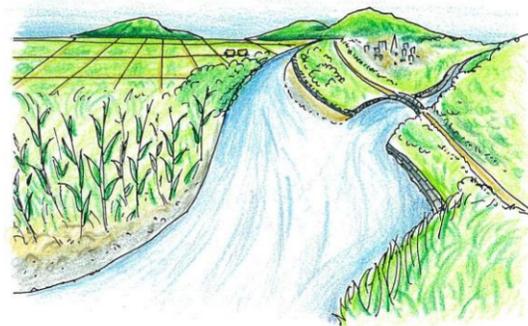
↑電気ショッカー船での外来魚駆除の様子。江津湖地域の生態系を『守る』

熊本市内の様々な場所にある、様々な生きものの生息・生育地の保全に努め、それらのつながりを確保していくことが大切です。外来種による影響、イノシシ等による農業被害、地球環境の変化による影響など、生物多様性を脅かす危機（Cだより第3号参照）に対し、広域的に自然環境の保全に取り組む必要があります。

- ◎生物多様性を保全するための仕組みやルールを守りましょう。
- ◎地域の自然資源の発見・保全のための知恵を共有しましょう。
- ◎生物多様性を保全するための取組へ参加・協力しましょう。
- ◎「その地域にもともといない生きものを野外に放さない」など、正しい理解に基づき適切に行動しましょう。

#### ④創る

～生物の生息・生育地（拠点）の創出、生態系ネットワークの向上～



↑河川の水と河川敷の緑が繋がり、生態系のネットワークを形成し、生きものの生息・生育地を『創る』

立田山や江津湖など市街地に残された自然環境、湧水や寺社等と一体となって保全されてきた自然環境、公園や街路樹、庭などの緑、熊本城の樹木。里地里山や田園地帯の小水路、白川・緑川などの河川、河川敷などは、海にいたるまで地域間をつなぎ、生物多様性の保全に重要な役割を担っています。こうした環境の連続性を確保し、生態系のネットワークを形成することで、生きものの生息・生育地を創出することが必要です。

- ◎生物多様性に配慮した緑地や水路、水辺を創出するための取組へ参加・協力しましょう。
- ◎庭などに熊本地域の植物を植えるなど、生きものの生息・生育地を創り出しましょう。

#### ⑤活かす

～めぐみの持続可能な利用～

生物多様性の保全・持続可能な利用と地域社会・経済の活性化をうまく循環させるため、生物多様性の様々な魅力を地域資源として認識し、地域づくりや観光、農水産業等において活用していく必要があります。

- ◎地元の生物多様性と地下水、歴史・文化の魅力を発見し、その魅力を生かした地域づくりをしましょう。
- ◎地元で採れた農水産物や、生物多様性や地下水に配慮した農水産物を選びましょう。



↑中央区では“大井手の楽校”を開催し、歴史遺産の魅力をまちづくりに『活かす』

#### 江津湖のほとりから

指定外来魚(6種)



環境共生課では、平成27年度に電気ショッカー船を導入し、江津湖地域の魚類の生息状況調査や指定外来魚の捕獲・駆除を行っています。捕獲した指定外来魚は大きさや重さなどを調べ、さらに、魚やエビなどの生きものを主食としている3種（オオクチバス、ブルーギル、カムルチー）は胃の内容物も確認しています。平成30年度までに捕獲された指定外来魚は全部で2,034匹！一番多いのはジルティラピア970匹、次いでオオクチバス567匹となっています。

また、江津湖地域には釣り上げた指定外来魚を入れる回収箱や回収いけすを設置しています。釣り上げた指定外来魚は再放流（リリース）が禁止されています（江津湖地域における特定外来生物等による生態系等に係る被害の防止に関する条例）ので、ここに入れるようご協力をお願いします。釣り人の皆さまのご協力のおかげで、平成30年度に回収された指定外来魚は136匹でした。ありがとうございました！引き続きご協力をお願いします。

これまでの回収や捕獲実績など  
詳しく知りたい方は熊本市ホームページへ→



↑回収箱と回収いけす

～編集後記～ 昨年の干支の動物はイノシシでした。古くから、田や作物の神さまとして信仰され、その肉や皮は山からのめぐみとして人々に利用されてきました。しかし、近年では、農作物被害や住宅地への出没等、有害鳥獣として取り上げられることが多くなりました。時代とともに社会や人々の生活スタイルが変化し、耕作放棄地の増加や里山の荒廃が進んだことも関係すると言われています。イノシシをとおして、人と野生動物との関係についても、考えていきたいですね。（環境共生課）

くまもと Cプラン

『熊本市生物多様性戦略』（本編・概要版）は、熊本市ホームページからダウンロードできます。ぜひご覧ください！

